

# 川崎市動物愛護センター (ANIMAMALL かわさき) 移転開設

健康福祉局動物愛護センター 主任 **山本 義明**



## 1 新施設の概要・特色

### (1) 移転開設に向けた経緯

平成31(2019)年2月12日、川崎市動物愛護センターは、ANIMAMALL かわさきの愛称のもと、高津区蟹ヶ谷から中原区上平間に移転開設した。旧施設は、昭和49(1974)年9月に「川崎市飼い犬管理センター」として発足し、本市の動物行政の実践的な推進施設としての役割を担ってきた。

設立から40年以上が経過した現在、動物行政も多様化し、業務も多岐にわたるようになった。施設の老朽化や狭隘さによって、その機能を果たせなくなっている現状から、平成22(2010)年6月に「川崎市動物愛護センター建設に関する請願」が、市議会において全会一致で採択された。

なお、移転開設に向けた主要な流れは、表1に示すとおりである。

H23. 3	「動物愛護センター庁内あり方検討委員会報告書」のとりまとめ
H25. 3	外部有識者会議で「動物愛護センター懇談会報告書」のとりまとめ
H26. 3	「川崎市における動物行政の方向性と動物愛護センターのあり方」を策定
H26.10	「川崎市動物愛護センター整備における基本方針」を策定
H27. 2	「川崎市動物愛護センター整備基本計画」を策定
H29.10	川崎市動物愛護センター新設工事着工
H31. 1	川崎市動物愛護センター新築工事完了
H31. 2	川崎市動物愛護センター開設(供用開始)

表1 ANIMAMALL かわさき移転開設までの流れ

### (2) 移転先の選定

新施設の建設にあたり、旧施設所在地での建替え

は、法規制上不可能であり、次の点を要件に、本市上下水道局の上平間公舎廃止に伴う跡地を有効利用するかたちで選定、建設された。

#### 【移転先の選定条件】

- 建築基準法の用途(畜舎)に適合していること
- 市内における捕獲や保護に支障を来たさないこと
- 交通の便がよいこと
- 公有地の活用を前提とすること

旧施設に比べて、やや南部寄りになったものの、最遠の麻生区域まで、公用車により片道1時間余りで向かうことは可能である。

当施設までのアクセスは、旧施設が最寄り駅からバス利用の距離だったのに対し、移転後は、最寄り駅から徒歩10分前後の圏内となり、来館者の利便性が大幅に向上した。また、日曜を開館日としたことで、とりわけ生産年齢世代が来館しやすくなったものと考えられる。

### (3) 旧施設からの改善点等

ANIMAMALL かわさきは、旧施設に比べて、建屋は2階建てから3階建てになり、敷地面積で約2倍、延床面積で約4倍になった(表2)。

	旧	新
建築構造	鉄筋コンクリート2階建	鉄筋コンクリート3階建
敷地面積	1,282㎡	2,500㎡
延床面積	609㎡	2,308㎡

表2 新旧施設の比較

施設内は、来館者が自由に立ち入り、見学可能な共用スペースを各階に設けている。中央の階段部は、天窓まで吹抜けになっているほか、ガラス張りを多用し、明るく開放的な空間となっている。

ANIMAMALL かわさきは、動物を収容するという

特殊性を持つ施設であることに鑑み、周辺環境に対して、次に示すさまざまな点で配慮している。

- 鳴き声対策**: 建具(開口部)を含め、防音・遮音効果の高い建物構造とし、内装には吸音効果に優れた材料を採用した。
- 臭気対策、被毛等の飛散防止及び塵埃対策**: 脱臭・集塵機能を搭載した設備を採用した。また、飼養管理で使用するシーツ等の布類は、リネン室で洗濯から乾燥までのすべてを行っている。
- 周辺との調和**: 施設外観は、周辺と調和の取れた色彩とし、敷地内に植栽等を設置することで緑化に努めた。

ANIMAMALL かわさきに収容された動物は、飼い主へ返還することや新たな飼い主へ譲り渡すことが目的である。収容後は、複数のステップを経て譲渡に結び付けていく。その期間、動物が適切な環境で、適正な飼養管理を受けられるように、動物の福祉に配慮した設備を整え、運用を行っている。

飼養管理室については、空調設備や床暖房の導入により、動物に適した空気環境、温熱環境に整えることが可能である。また、先に述べたとおり、脱臭装置や防音構造を採用し、動物のみならず、職員の労働環境の向上や来館者を迎えるに当たっての配慮にも

なっている。

動線、エリア分けは、感染症対策や業務効率向上のために重要である。ANIMAMALL かわさきでは、動物の収容から検疫、処置、隔離又は飼養管理といった基本的な流れをフロア、エリア、扉等によって適正な配置、分割を行うとともに、履物替え、使い捨て手袋の使用、洗浄、消毒の徹底等の運用面を組み合わせることによって、衛生上のリスクを最小限に抑えるように努めている。

## 2 3本の柱

ANIMAMALL かわさきでは、「動物を通じて、誰もが集い、憩い、学べる交流施設」を基本コンセプトとし、次の3つを主たる役割として位置付けている。

### (1)いのちを学ぶ場

いのち・MIRAI教室やサマースクールなどを通して、動物を飼うことの責任や、命の大切さを学ぶための情報発信をしている(例①)。

### (2)いのちをつなぐ場


保護した動物たちが新しい家族と出会う譲渡会を

**【例①:来所型いのち・MIRAI教室】**

**○ねらい**  
小学生等を対象に、施設展示や実際の動物を見学するなど、センター機能を活用した来所型教室を実施することで、幼少期からの動物愛護啓発の取り組みを強化

**○効果**  
人と動物の共生社会への理解、適正飼養の促進・終生飼養による収容動物の減少・抑制

**○実績**  
11回、336名(移転開設～令和元(2019)年12月)

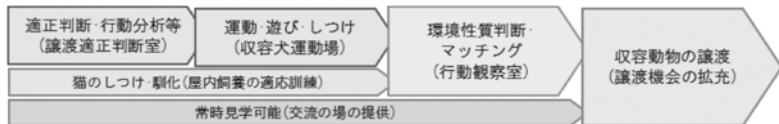


**【例②:しつけや馴化、マッチング、譲渡会】**

**○ねらい**  
飼養希望者とのマッチング、譲渡機会の拡充など、収容動物の譲渡を充実・強化し、動物との交流の場を提供する。

**○効果**  
殺処分削減(抑制)及び終生飼養の促進

**○実績(令和元年度)**  
犬:収容数 52頭、譲渡数 24頭  
猫:収容数 546頭、譲渡数 351頭  
(いずれも、12月末まで)



犬  
猫  
見学者

常時見学可能(交流の場の提供)

収容動物の譲渡に向けた流れ

### 【例③：地域猫の不妊去勢手術】

#### ○ねらい

平成30(2018)年8月から新たに開始した「地域猫活動支援制度(地域猫サポーター登録制度)」と連携し、地域猫の不妊去勢手術を実施することで、野良猫対策の取り組みを強化

#### ○効果

猫に係る苦情の低減及び子猫の出生減少による引取り数の削減



#### ○実績(令和元年度)

地域猫サポーターが管理する猫の不妊去勢手術:30頭(12月末まで)

### 【例④：災害対策】

館内には、4つの災害用備蓄用倉庫を設け、719個のケージを保管している。

発災時には、平成26(2014)年3月に締結された「災害時の動物救護活動に関する協定書」に基づき、(公社)川崎市獣医師会が川崎市動物救護本部をANIMAMALLかわさきに設置する。本市は、ANIMAMALLかわさき敷地内に動物救護センターを設置し、被災動物の一時保管を行う。



災害用備蓄倉庫に保管されているケージ

#### ○実績

令和元(2019)年8月には、動物救援本部設置訓練を実施した。実際に、同年10月の令和元年東日本台風による被害から、10月18日に本市初の動物救護本部を設置、(公社)川崎市獣医師会会員の動物病院やANIMAMALLかわさきで、被災ペットの一時預かり支援を実施している。



動物救援本部設置訓練実施の様子

開催するとともに、動物の正しい関わり方などを情報発信している。また、保護した動物へのきめ細やかな健康管理、迷子の犬や負傷した犬・猫の保護・返還などを行っている(例②、③)。

### (3)いのちを守る場

動物由来感染症の情報発信や検査などを実施している。また、災害時に必要な物品などの備蓄について情報発信している(例④)。

## 3 移転後の運営状況

### (1)職員の配置状況

平成31(2019)年4月1日現在の状況を表3に示す。

	総数	事務職	獣医師	用務員
総数	16	2	12	2
所長	1		1	
業務係	9		8	1
庶務担当	3	2		1
企画担当	3		3	

表3 職員の配置状況(平成31(2019)年4月1日現在)

主な所掌事務は、次のとおりである。

●業務係：収容動物の飼養管理に関すること、譲渡会

を含めた動物の譲渡に関すること、地域猫サポーター登録制度に基づく不妊去勢手術等

●庶務担当：予算、物品の購入及び管理、寄附金に関する対応、委託契約等

●企画担当：いのち・MIRAI教室の企画・運営、広報、かわさき犬・猫愛護ボランティア登録、施設見学対応等

### (2)来館者数

移転開設以降、予想を大幅に上回る来館者を迎えている。旧施設での年間来館者数は、約2,300人であった。移転開設に向けた年間想定来館者数は、約7,000人と見積もっていたが、7月には延べ1万人、11月には延べ2万人を突破した。1日平均で、平日65人、日曜日252人を数えている(令和元(2019)年12月末現在)。多くの来館者を迎える譲渡会を日曜に開催している影響は大きいと考えられるが、日曜開館の効果があががえる。

### (3)バックヤードツアー

ANIMAMALLかわさきは、どのような施設で、どのような事業を行っているのかを、業務専用スペースを含めて館内案内を実施している。原則、毎週日曜及び水曜に最大3回、45分～1時間程度で実施している。ただし、他の業務との兼ね合いで休止することもある。

#### (4)ネーミングライツパートナー

施設のさらなる魅力の向上を図るとともに、市有財産の有効活用を目的に、ANIMAMALL かわさき諸室へのネーミングライツパートナーを募集している。移転開設当時から契約している3室、また、現在パートナーを募集している5室がある。

現在の契約要件は、1室あたり年額30万円以上、期間は3年以上としている。なお、施設の魅力向上提案のうち、金額換算できるもの(製品等の提供)についてもネーミングライツ料とみなすこととしており、譲渡する動物に挿入するマイクロチップや、犬猫の各種飼養管理用品の提供を受けている。

#### (5)施設貸出し

地域に開かれた施設を目指すべく、市内における、ボランティア活動をはじめとした市民活動を促進し、併せて動物愛護の気風を高めるため、3階の市民協働室1(定員18名)、同2(定員6名)及びヒルズ研修室(定員108名)の3室を「市民活動コーナー」として、登録団体に無償で貸し出している。

## 4 展望と課題

### (1)教育機能の拡充

「いのち・MIRAI教室」は、従来の学校等に出張する訪問型プログラムに加え、移転開設後は新たに館内設備を活用した来所型プログラムを実施している。

図1で示す「展示サイン」は、館内壁面に掲示されたイラストで、犬・猫の適正飼養やボディランゲージを表現している。プログラムでは、一例として、展示サイン



図1 展示サイン

で学んだ後、実際の犬や猫を観察して、気持ちを考えるというメニューを用意している。

来所型については、試行錯誤を重ねながら、教育委員会等との連携や、外部有識者を交えた「いのちの教育に係る意見交換会」を通じて、ブラッシュアップしていく必要がある。

### (2)ボランティアの育成、強化

本市では、川崎市動物の愛護及び管理に関する条例により、かわさき犬・猫愛護ボランティアを募ると規定している。令和元(2019)年11月から第11期が始まり、148名の登録があった。また、登録者の中から、ANIMAMALL かわさきの普及啓発、飼養管理及び庁舎管理の業務支援ボランティアとして、約120名が活動中または今後活動予定である。

業務支援ボランティアは、面接や研修を通じて、審査し、必要な知識等を習得してもらう仕組みとなっている。なお、本ボランティアの中には、関係する資格、技術等を有する登録者もあり、これらを活用しつつ育成し、協働していくことで、事業推進の大きな力になるものと考えられる。

### (3)広報、啓発の充実

ANIMAMALL かわさきには、譲渡を待つ多くの犬や猫が收容されている。「いのちをつなぐ場」を一層推進するため、ホームページ、フェイスブック等を活用し、最新の情報をこまめに発信していくことが重要である。

リーフレット、市政だより等の紙媒体には、直接手に取るというメリットがある。市政だより令和元(2019)年9月1日号にANIMAMALL かわさきの特集が組まれたところ、その後寄附等の問合せが増加したことから、効果の高い媒体であることがうかがえる。

充実した情報発信を行っている他自治体のホームページ等もあることから、それらも参考にしながら、情報の質も高めていく必要がある。

移転開設から1年が経過した。まだまだ手探りの面も少なくないが、多様な主体との連携を強化し、本市の動物愛護行政の先導役となる施設を目指していきたい。